



理事長・院長 吉田 泰久

吉田病院が目指す病院づくり 創立70周年を迎える

神戸兵庫区に整形外科病院として70年前に開業した吉田病院は、1968年に脳神経外科として再出発し、日本屈指の脳神経外科病院を核として領域を拡大しています。急性期医療にとどまることなく、機能回復のための訓練を重視、慢性期、終末期までをトータルに管理するべく、地域医療連携のネットワーク強化に注力しています。

急性期から回復期まで 一貫して治療を行う

早い時期でのリハビリの必要性は十分認識されていましたが、当時は脳卒中でリハビリをするという概念がほとんどありませんでした。当院では柔道整復師に依頼して行っていましたが、その後、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が国家資格として認められ、2000年に回復期リハビリテーション病棟が制度化されたことで一気に広がりました。時代の要請に従い、当院でも2013年に回復期リハビリテーション病棟を開設しました。それにより手術を含む初期治療は医師が担当し、現在では9割以上の患者さんが発症当日からリハビリを開始して

県内でもトップレベルの 症例数を誇る

県内でもトップレベルの 症例数を誇る

専門性の高い診断と治療を提供する専門外来

脳卒中の後遺症がある方や再発予防が必要な方、脳卒中以外でも、認知機能が落ちてきたと

今後、注力すべきだと考えるのは、その先である回復期以降のケアです。脳卒中・脳梗塞は一度回復しても再発する人が多く、要介護となる原因の半数を占めます。退院後、地域での生活にいたるまでの回復期リハビリテーションや在宅生活での継続的なリハビリテーション、また介護や再発を予防するためには、発症時の急性期治療にとどまらず、専門的な知識を持つ医療や介護スタッフによるケアが不可欠です。私どもも、時代の要請に沿って、2013年には回復期リハビリテーション病棟を開設すると同時に、訪問看護、訪問リハビリテーション事業を立ち上げました。2015年から介護療養型老人保健施設がグループ傘下となり、法人を統一して一体的な運営をしております。

手術をして終わりではなく、ある程度自立できる状態で地域に戻せるよう、100人体制でセラピストを配置し、急性期から回復期まで一貫して治療を行っています。このような脳外科の専門施設は全国的にも少ないのでしょうか。

地域に戻ってからいかに再発を防ぐかが課題

から仕方ないと諦めていたら、実は水頭症が原因で、それを手術で治せるということはあります。例えば、歩きづらくなったのは老化だから仕方ないと諦めていたら、実は水頭症が原因で、それを手術で治せるということはあります。水頭症は診断がつきづらい病気なので、積極的に治療をする脳外科医が少ないのです。単なる老化だと思って諦めている人の中にも手術で治る可能性がありますので、ぜひご相談いただいたらと思っています。

インタビュー全文をWEBページにて公開しています。

<https://www.yoshida-hp.or.jp/column/interview/index11.html>

TOPICS

- 未知なる脳神経外科分野で開業を決意
- 医療機器の登場で脳卒中治療は革命的に進化
- 県内でもトップレベルの症例数を誇る
- 急性期から回復期まで一貫して治療を行う
- 地域に戻ってからいかに再発を防ぐかが課題
- 専門性の高い診断と治療を提供する専門外来
- 終末期の鍵となる、意思表示できる仕組み作り



吉田病院メールマガジン <https://www.yoshida-hp.or.jp/tiiki/newsletter.html>

日々の診療にお役立て頂ける脳疾患に関する専門的な情報や当院の取り組みをメールマガジンにて配信しています。

※配信停止などはいつでも行って頂けます。

メルマガ登録はこちら



社会医療法人榮昌会
吉田病院 附属脳血管研究所

〒652-0803 兵庫県神戸市兵庫区大開通9丁目2-6
TEL:078-576-2773 FAX:078-577-2792
<http://www.yoshida-hp.or.jp/>

患者さんのご紹介や当院へのご意見などは地域医療連携室にお気軽にご連絡ください。

TEL:078-576-1520

(平日 9:00~16:30 土曜 9:00~12:00 ※祝祭日は除く)